



ウズベキスタンのモスク

トルコ、カッパドキア



着付けた三人(イランの首都テヘラン、アーダスハウスでのワークショップ)

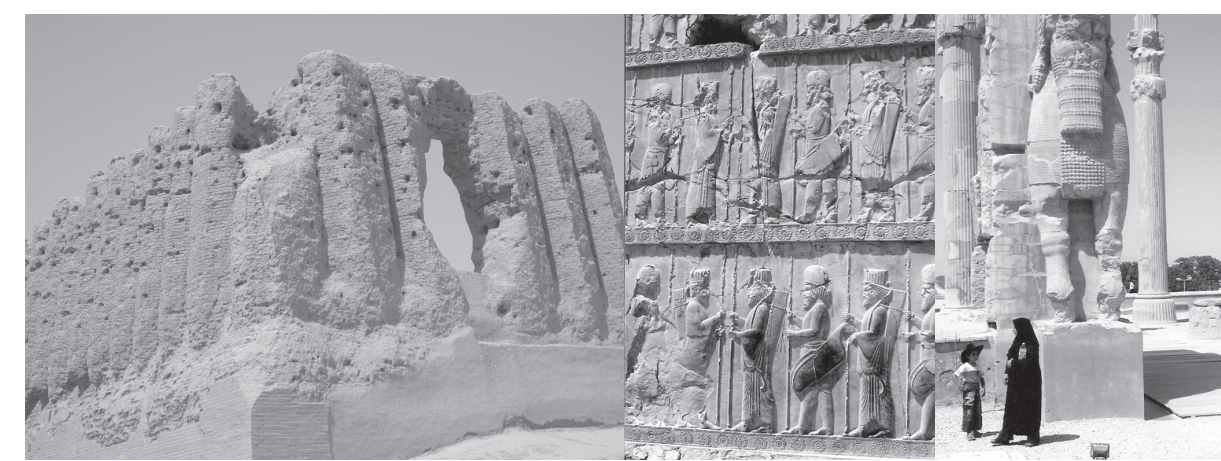
イランのバザールにて

上/風呂敷ワークショップ(キルギス・セシエック・日本センター)
下/子供の紙粘土ワークショップ
(イランの首都テヘラン、アーダスハウス)

持参した企画展は、日本現代テキスタイルアート展／ファイバーアートミニチュール展／FUROSHIKI—用と美—／日本の児童画100点／ORIGAMI—遊びの幾何学—／。ワークショップとして着物の着付／風呂敷のノウハウと包み方／折紙技法／美しい造形(粘土細工)と竹とんぼ飛ばし等々、更に要地イスタンブールでは国立マルマラ大学との共催によるシンポジウムを2日に亘り行いました。議題は「テキスタイルアートワークに於ける伝統と現代の融合」でした。

展示会も地元トルコの作品群と合同で日本のテキスタイル展が開催され、FUROSHIKI展やワークショップも行い、日本の美意識や和の心を伝える努力をしました。限られた時間ではありましたが私達にとっての大きな収穫は町の人々との触れ合い、バザールや町中のチャイでは人々の生活のなまの風俗や日常生活を垣間見れる機会でありました。チャドルをすっぽりかぶった姿は近づき難いものもありましたが、人なつこい笑顔で「ジャポン?一緒に写真を撮らせて」と声をかけられることも度々で驚くやら嬉しいやらでした。染色や織物、刺繍、衣裳やアクセサリーをはじめ陶芸、木工、彫金などものづくりの伝統工芸に興味深いのは当然ですが、各地の遺跡や建造物、博物館、研究所、工房、学校などの訪問はその国の歴史や文化、伝統、教育事情を知る上に大きな糧と示唆になりました。

万里の長城、桜蘭の美女、玉門、イシクル湖畔の石絵、ヒヴァの町、メルブの遺跡、ヤズドの丘、ベルセポリス、カッパドキアの地下都市などなど、数千年の歴史を一挙に旅して思うことはあらためてアジア



トルクメニスタン・メルブの遺跡

イラン、ベルセポリス(右と中央)



イスファハンの絨毯店

上/イランのバザール内テキスタイルの売店
下/ウズベキスタン、セフの絨毯の工房

上/イラン、イスファハンのウッドプリント
下/イラン、カシュガイ絨毯の絨毯を織る風景

の広さと民族興亡のすさまじい闘争のエネルギーを感じました。一方人類の英知を結集した素晴らしい遺跡の数々も知りました。私達はこれ等を教訓としながら明日への道を賢く拓いて行かねばならないでしょう。

イスタンブールから汽車で古代交通の要所テッサロニキに入り、アテネ・ペトラスを経てフェリーで一晩、イタリアのバリーに入港しました。そこからボンベイ、ナポリを経てローマのテルミニ駅にたどり着きました。9月21日コロセオ前で記念撮影を行い、9月24日 日本文化会館で先行している展示会に加え風呂敷のワークショップとプロジェクトの報告会を行い、全行程のプログラムを終えました。

翌9月25日隊員一同の帰国を見送った夜一人になるとこの3ヶ月の出来ごとが走馬燈のように去来し、責任を無事果たした安堵感と共に諸々の感慨が押し寄せ、涙がとどまらなくなりました。

2008年度は訪問先で交換してきたシルクロードの子供たちの絵展を日本の各地で開催すると共に、得てきた様々の事柄をメッセージトークし伝えながらアジアで共に生きて行く日本の未来について語り合いたいと思っています。

(わたなべひろこ)

※今回のプロジェクトはTDAの後援をうけ、また持参のFUROSHIKI展は関西を中心とするTDA会員の方々の作品制作と協力、(株)宮井様の多大なご支援によってワークショップ共々実現しました。心より感謝致します。